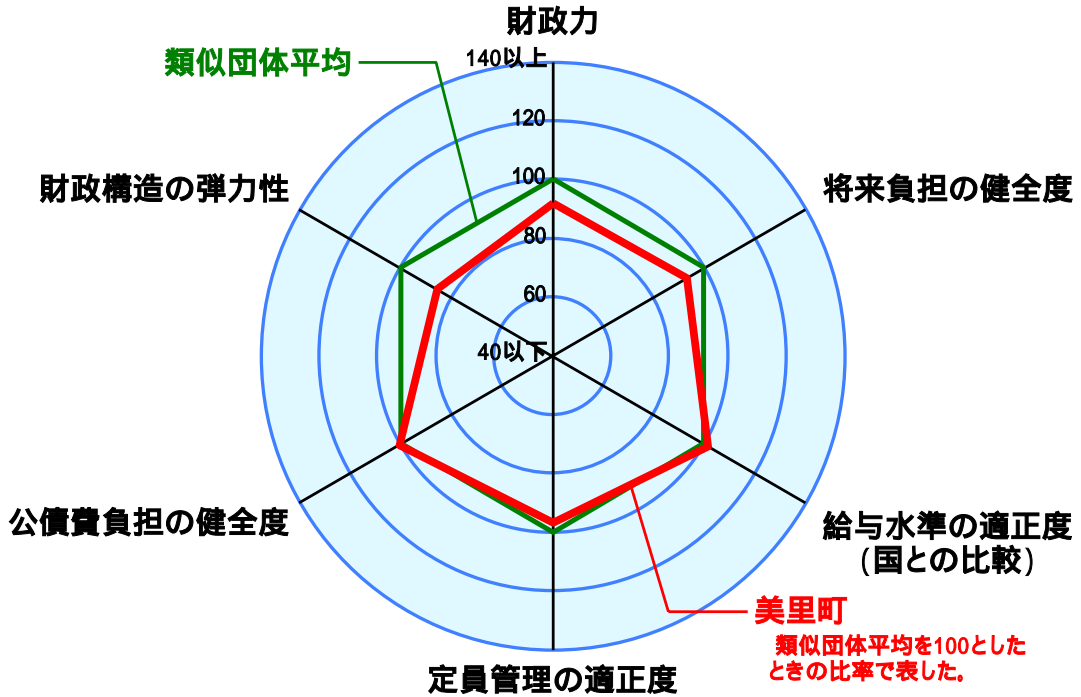
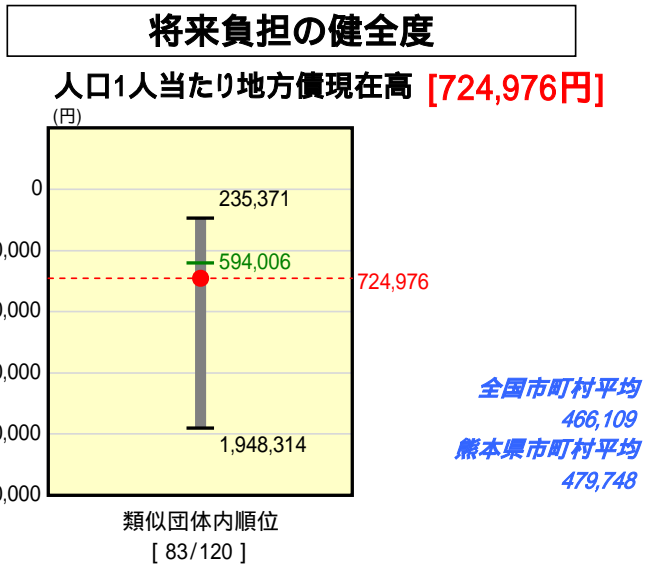
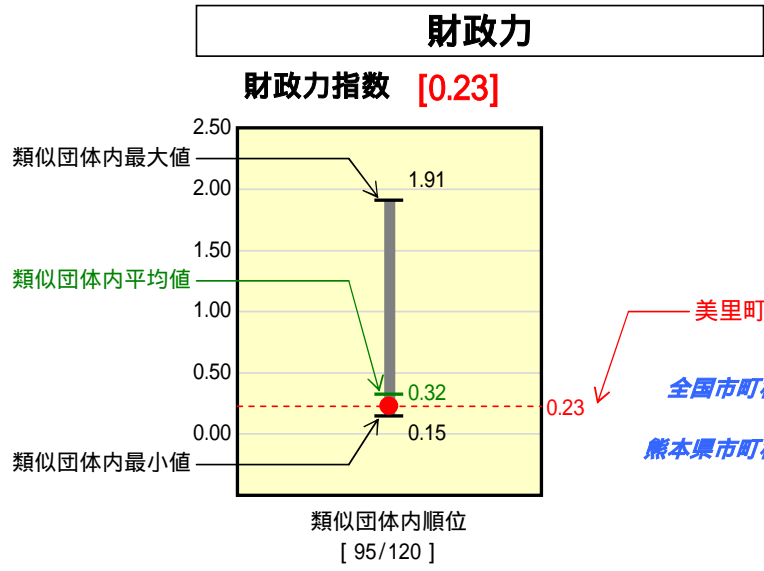


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

熊本県 美里町

人口	12,756人(H17.3.31現在)
面積	144.03 km ²
歳入総額	9,605,502千円
歳出総額	9,400,876千円
実質収支	147,267千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

【財政力指数】
合併前から固定資産税の伸びなどにより上昇傾向にあるが、依然として類似団体平均を下回っている。少子高齢化に加え、基幹産業である農林業の衰退などにより、財政基盤が弱い。平成16年11月1日合併により財政基盤の強化が図られたところであり、集中改革プラン及び平成18年度に策定する行財政改革プログラムに基づき、歳出削減、定員管理・給与の適正化、町税の徴収強化等の取組みを通じて更に財政基盤の強化に努める。

【経常収支比率】
平成14年度から90%を超えた状況が続き、平成16年度では類似団体平均を大きく上回っている。人件費、公債費、繰出金などが県内類似団体に比較して高く、また、公債費は平成19年度がピークと見込まれるため上昇傾向にある。集中改革プラン及び行財政改革プログラムに基づき、新規採用の抑制や事業の峻別による公債費の縮減等を図り、義務的経費の削減に努め、平成20年度には95%以下に抑制する。

【起債制限比率】
類似団体平均を0.1ポイント下回っている。ただ、平成12年度から平成13年度にかけて実施した総合体育館建設事業、文化交流センター建設事業などの大型事業の償還が始まっており、上昇の兆しが見られる。事業評価制度等を導入し事業の峻別を行い、新規発行の抑制に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】
平成12・13年度に実施した大型事業の影響で、類似団体平均に比較して約1.2倍の水準にある。平成18年度に防災行政無線整備事業を予定しており、新規の地方債発行額(3億7千万円)が見込まれる。他事業における地方債の発行を抑制し、財政の健全化に努める。

【ラスパイレス指数】
従来(合併前)から町の財政状況を考慮しながら、県内の類似団体に準じた給与制度を採用しているため、類似団体の平均をやや下回っている状況にある。今後は、行財政改革プログラムに即した給与体系により、なお一層の給与の適正化に努める。

【人口1000人当たり職員数】
合併前の旧町町においては、定員モデルを基に定員管理を行っていたため、類似団体平均を上回ってはいなかったが、合併に伴う類似団体の変更などによりやや上回る結果となった。合併後、2年間は新規採用を行っておらず、平成18年度以降については、10年間の定員適正化計画を策定し、事務事業の見直しを積極的に推進し、職員の年齢構成が偏ることがないように退職者の補充を計画的に行い、職員数の

